

<特集「受動表現」>

朝鮮語・韓国語の受動表現 Passive expression in Korean

長渡 陽一
Youichi Nagato

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 朝鮮語(韓国語)で動詞の受動形に関わる形式には、語形の上で受動と言える *pat-*(받-)「受ける」や *taŋ=ha-*(당하-)「被る」のほか、自動詞化の補助語幹 *-dʒi-*(-지-)や、ヴォイス転換形態素などがある。これらの文が受動と呼べるかどうかは構文や意味などにより判断することになる。朝鮮語で受動構文が可能なのは、被動者が人である直接受身の一部、および持ち物や身体部位の受身、動作主が非明示的な結果目的語の場合である。自動詞の迷惑受身などは受動文にできず能動文で表される。

Abstract: In Korean, the passive forms of verbs include *pat-*(받-) 'to receive' and *taŋ=ha-*(당하-) 'to suffer from', as well as the intransitivizing stem *-dʒi-*(-지-) and the voice-converting morphemes. Whether or not these sentences can be called passive is determined by the sentence structure and meaning. In Korean, passive constructions are possible in some direct passives where the subject is a person, and where the subject is a possessive or a body part and some passives with an effective object where the agent is not explicit. The passive of annoyance of the intransitive verb cannot be expressed in a passive sentence, but in an active sentence.

キーワード: ヴォイス転換形態素、持ち物受身、結果目的語

Keywords: Voice-converting morphemes, Possessive passive, Effective object

1. はじめに

朝鮮語の受動表現の使用率は日本語に比べて少ないようである。許(1999)では、会話文において日本語がコーパスの約6.5%に対して朝鮮語では約2%と算出している。許(1999)では朝鮮語の受身文について「被動文」としており、データの中には日本語訳で「捕まった」となるなど、受身でないと思われる自動詞も含まれるので、これらを除外すれば朝鮮語の受動文はさらに少ないと思われる。

朝鮮語で動詞の受動形として扱われる *-i-*, *-hi-*, *-li-*, *-ki-* (-이-, -히-, -리-, -기-) はヴォイス転換形態素であり、伊藤(2012)も指摘しているように受動とは限らず、自動詞、他動詞、使役も形成するので、形成された自動詞が受身であるかどうかは動詞の形態からは判断できない。また、日本語と朝鮮語の対照研究では、日本語の「られる」形に対応する朝鮮語文を受動文として観察することがある。この視点からは、*teri-*「殴る」の受動形ではない別の語彙である *madʒ-*「殴られる」を受動として扱ったり(例文(1)参照)、また *kol-li-*(걸리-)「掛かる」を *kol-*(걸-)「掛ける」の受動の「掛けられている」として扱う(例文(15)参照)ことがある。いずれにしても、白(2011)が(ヴォイス転換形態素や *-dʒi-*などの形態について)「これらすべてを受身形式として認めるかどうかについては、統一的な見解が得られていない」と指摘しているように、朝鮮語の受動は形態的に定義することは難しい。そこで朝鮮語の受動は、動詞の関連項がとっている格や構文、意味なども含めて定義することになる。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

本稿の朝鮮語発音表記は音素表記を基本としつつ、音声実現形をある程度反映させた。g, d, dʒ, b と k, t, tʃ, p は音素 /g/ (ㄱ), /d/ (ㄷ), /j/ (ㅈ), /b/ (ㅂ) の異音である。これらが形態論的に濃音化する場合は *k* のように示し、もともと濃音である *kk* (ㄱㄱ) と区別した。r (ㄹ) は音節末や重子音のとき *l* とした。ただし、*i-ŏ* は [jŏ], *iss-ta* は [itta], *palp-hi* は [palpʰi] などとなるが、このようなものは音声よりも形態素の特定性を優先するため反映していない。また音節末の閉鎖音は不可聴的開放 [kʰ] で実現するが表記には反映させていない。

本稿のデータを収集するにあたり、日本語文からの朝鮮語文の作成とその後のいろいろな検証は、コンサルタントとして韓国ソウル市出身、現在 40 歳代のキム・ウンソン（金銀鮮）氏に協力いただいた。

1.1. 受動表現に関わる動詞の形式

朝鮮語には、動詞の受動形をつくるための十分に生産的な方法はない。それぞれ動詞によって次のような形式の操作によって構文的または意味的に受動的な表現が得られるものがある。これらの操作のうち明確に受動と呼べるのは(a)のみである。

- (a) 補助動詞 *pat-* (받-) 「受ける」、*taŋ=ha-* (당하-) 「被る」を付する
- (b) 補助動詞 *=ha-* (하-) 「する」を *=twe-* (되-) 「なる」に替える
- (c) 補助語幹 *-dʒi-* (-지-) をつける
- (d) 動詞語幹にヴォイス転換形態素をつける
- (e) 意味的に受動の対と考えられる別語彙

(a) この形式は *pat-* (받-) 「受ける」、*taŋ=ha-* (당하-) 「被る」を利用しているため意味的に受動と呼べる。この形式を用いるのは、主に補助動詞 *=ha-* (하-) 「する」を伴う他動詞であり、この *=ha-* (하-) を、利益のあるもの時は *pat-* 받- 「受ける」に、被害の時は *taŋ=ha-* 당하- 「被る」に置き換える。ただし *=ha-* (하-) 「する」形式の全ての動詞がこの形式にできるわけではない。

saraŋ=ha- (사랑하-) 「愛する」 → *saraŋ=pat-* (사랑받-) 「愛される」 (2.9 参照)

mojok=ha- (모욕하-) 「侮辱する」 → *mojok=taŋ=ha-* (모욕당하-) 「侮辱される」

前接の名詞が補助動詞から独立することがあり、その時は *saraŋ-ul ha-* (사랑을 하-), *saraŋ-ul pat-* (사랑을 받-) のように対格 *-rul / -ul* (-를/-을) をとる。また *kwerop-hi-* 괴롭히- 「苛める」のように補助動詞 *=ha-* (하-) 「する」を伴わない動詞でも、動名詞化 (*-m*) して *kwerop-hi-m-ul taŋ=ha-* (괴롭힘을 당하-) 「いじめられる」のようにできるものがある。また、被動者は必ず人(有情物)であり、*ijon=taŋ=ha-* (이용당하-) 「利用される」なども物が被動者にはならない。

(b) この方法は *palmjŏŋ=ha-* (발명하-) 「発明する」のような他動詞を *palmjŏŋ=dwe-* (발명되-) とするもので、このように動作主を *-e ui=he* (-에 의해) 「によって」などで表せるものは構文的に受動（「発明される」）と考えることもできる。しかし *pal'ŏn* (발전) 「発展」や *kamjŏm* (감염) 「感染」¹ のように *=ha-* (하-) と *=dwe-* (되-) がほぼ同じ意味「発展する」「感染する」で用いられるものもある。

「感染」	<i>*pairɔsu-ga kamjŏm=ha-</i> ウイルス-NOM 感染 する	<i>pairɔsu-e kamjŏm=dwe-</i> 「ウイルスに感染する」 ウイルス-DAT 感染 なる
	<i>*마이러스가 감염하-</i>	바이러스에 감염되-
「発展」	<i>pal'ŏn=ha-</i> 「発展する」 발전하-	<i>pal'ŏn=dwe-</i> 「発展する」 발전되-

1 *kamjŏm=ha-* (감염하-) 「感染する」は韓国国立国語院『標準国語大辞典』に登録されている（査読者から指摘頂いた。ここに感謝する）が、コンサルタントによれば一般には用いられないとのことである。

(c) 補助語幹 *-dʒi-* (-지-) には次のような機能がある。

(c-1) 無意志的变化を表す:

tɔp- (덥-) 「暑い」 → *tɔwɔ-dʒi-* (더워지-) 「暑くなる」
tfoaha- (좋아하-) 「好む」 → *tfoahe-dʒi-* (좋아해지-) 「好きになる」
kkunh- (끊-) 「切る」 → *kkunhɔ-dʒi-* (끊어지-) 「切れる」

(c-2) 無意志的な自発性を表す:

ka- (가-) 「行く」 → *ka-dʒi-* (가지-) (動きにくかった自転車に油をさしたら「よく動く」など)
ssu- (쓰-) 「書く」 → *ssɔ-dʒi-* (써지-) 「(書きやすくすらすら) 書ける」
nukki- (느끼-) 「感じる」 → *nukki-ɔ-dʒi-* (느껴지-) 「感じられる」

(c-3) (d)や他動詞化の *-u-* (-ㅓ-), *-iu-* (-ㅣ우-) につけて自動詞化する。動作主は明示されない。

ssu- (쓰-) 「書く」 → *ssu-i-* (쓰이-) 「書かれる」 → *ssu-i-ɔ-dʒi-* (쓰여지-) 「書かれる」
al- (알-) 「知る」 → *al-li-* (알리-) 「知らせる」 → *al-li-ɔ-dʒi-* (알려지-) 「(広く) 知られる」
ssɔ- (서-) 「立つ」 → *se-u-* (세우-) 「立てる」 → *se-u-ɔ-dʒi-* (세워지-) 「立てられる」(2.5 参照)
pitʃi- (비치-) 「映る」 → *pitʃu-* (비추-) 「映す」 → *pitʃu-ɔ-dʒi-* (비춰지-) 「映る、映される」

(d) ヴォイス転換形態素は特徴母音が *-i-* で、主に語幹末の音により *-i-*, *-hi-*, *-li-*, *-gi-* (이, 히, 리, 기) の異形態がある。受動に関連する機能としては他動詞を自動詞化する機能があるが、逆に自動詞を他動詞に、あるいは自動詞や他動詞を使役にするもの、さらには他動詞から同じ方法で自動詞と使役の両方を得るもの、自動詞から意味の異なる自動詞を得るものもある。*-i-* (이) と *-hi-* (히) を使い分けている例(「食べる」)もある。

他動詞 → 自動詞	<i>palp-</i> (밟-) 「踏む」	→	<i>palp-hi-</i> (밟히-) 「踏まれる」(2.2 参照)
〃	<i>kɔl-</i> (걸-) 「掛ける」	→	<i>kɔl-li-</i> (걸리-) 「掛かる」(2.8 参照)
〃	<i>puru-</i> (부르-) 「呼ぶ」	→	<i>pul-li-</i> (불리-) 「呼ばれる」(2.11 参照)
他動詞 → 自動詞	<i>tut-</i> (듣-) 「聞く」	→	<i>tul-li-</i> (들리-) 「聞こえる」
↳ 使役		↳	<i>tul-li-</i> (들리-) 「聞かせる」
他動詞 → 自動詞	<i>mɔk-</i> (먹-) 「食べる」	→	<i>mɔk-hi-</i> (먹히-) 「食が進む(自発)」
↳ 使役		↳	<i>mɔg-i-</i> (먹이-) 「食べさせる」
自動詞 → 他動詞	<i>nup-</i> (눅-) 「横になる」	→	<i>nup-hi-</i> (눅히-) 「(横に) 寝かす」
自動詞 → 自動詞	<i>ul-</i> (울-) 「泣く、鳴く」	→	<i>ul-li-</i> (울리-) 「(時計) 鳴る」
↳ 使役		↳	<i>ul-li-</i> (울리-) 「泣かす」(2.4 参照)

(e) 意味的に受動の対と考えられる別語彙が受動表現とされることがある。*teri-* (때리-) 「叩く」に対する *madʒ-* 맞- 「叩かれる」(2.1 参照) と、(*mal*=) *ha-* ((말)하-) 「言う」に対する *tut-* (듣-) 「聞く」(2.10 参照) がその例であるが、*pʰal-* 팔- 「売る」に対して *sa-* (사-) 「買う」が受動と呼べないように、これらを受動とするには問題が残る。

1.2. 格標示

格は、助詞によって標示される。ここには主な格助詞のほか、日本語の「は」に相当する主題助詞もあげておく。本稿の例文では、主格助詞と主題助詞は入れ替えがほぼ可能である。

主格「が」	<i>-ga/-i</i>	(-가/-이)	語末母音には <i>-ga</i> 、語末子音には <i>-i</i>
対格「を」	<i>-rul/-ul</i>	(-를/-을)	語末母音には <i>-rul</i> 、語末子音には <i>-ul</i>

与格「に」	<i>-hant^he / -ege</i>	(-한테/-에게)	人名詞に付く。口語は <i>-hant^he</i> 、文語は <i>-ege</i>
奪格「から」	<i>-hant^hesɔ / -egesɔ</i>	(-한테서/-에게서)	人名詞に付く。口語は <i>-hant^hesɔ</i> 、文語は <i>-egesɔ</i>
具格「で」	<i>-ro / -uro</i>	(-로/-으로)	語末母音, <i>r</i> には <i>-ro</i> 、語末子音には <i>-uro</i>
主題「は」	<i>-nun / -un</i>	(-는/-은)	語末母音には <i>-nun</i> 、語末子音には <i>-un</i>

朝鮮語は主格・対格型であり、能動文では動作主が主格、被動者が対格で現れ、受動文は被動者が主格で現れる構文をしているとすることができるだろう。その際、例文(1)のように動作主はふつう与格 (*-hante*) をとるが、奪格 (*-hant^hesɔ*) でも可能である。また日本語の「に」にあたる助詞 *-e* -에 は場所格の一つであり、人にはつかず受動の判断には関わらない。

2. 受動表現の文データ

2.1. (7) A は B に叩かれた。(直接受身)

- (1) *tfine-ga judʒɔŋ-hant^he madʒ-a-ss-ta.* (진예가 유정한테 맞았다.)
チネ -NOM ユジョン -DAT 叩かれる -E -PAST -終結
「チネがユジョンに叩かれた。」

この文は、直接受身の受動構文と同じく叩かれた被動者が主格 *-ga* (-가)、動作主が与格 *-hant^he* (-한테) となっているが、動詞 *madʒ-* (맞-) 「叩かれる」は *teri-* (때리-) 「叩く」の受動形式ではなく、意味的に対称的な別語彙 ((e)タイプ) であるので、この文は受動表現と明確に呼べるわけではない。次の(2)は同じ構文で動詞形式も受動形であることから、直接受身の受動構文が可能と言える。動詞は、*tfug-* (죽-) 「死ぬ」の(d)による他動詞形 *tfug-i-* (죽이-) 「殺す」を動名詞化 (*-m* 「殺し」) し、それを(a)によって受動にしたものである。

- (2) *tfine-ga judʒɔŋ-hant^he tfug-i-m-ul tay=he-ss-ta.* (진예가 유정한테 죽임을 당했다.)
チネ -NOM ユジョン -DAT 死ぬ-VOICE-名詞化-ACC 被る-PAST -終結
「チネがユジョンに殺された。」

この文はまた、*tfug-i-m* (죽임) 「殺し」を *salhe* (살해) 「殺害」としてもほぼ同じ意味の文となる。

2.2. (4) A は B に足を踏まれた。(持ち主の受身、体の部分)

この文も、日本語と並行した構文で表すことが可能である。被動者が主格で現れ、被動者の身体部分是对格 *-ul* (-을) で現れる。

- (3) *tfine-ga judʒɔŋ-hant^he par-ul palp-hi -ɔ-ss-ta.* (진예가 유정한테 발을 밟혔다.)
チネ -NOM ユジョン -DAT 足 -ACC 踏む -VOICE -E -PAST -終結
「チネがユジョンに足を踏まれた。」

2.1 の(1)の文にも(4)のように叩かれた身体部分を対格で入れることができる。こうすると構文は持ち主の受身となる。

- (4) *tfine-ga judʒɔŋ-hant^he mɔri-rul madʒ-a-ss-ta.* (진예는 유정한테 머리를 맞았다.)
チネ -NOM ユジョン -DAT 頭 -ACC 叩かれる -E -PAST -終結
「チネがユジョンに頭を叩かれた。」 ((1)に身体部分を追加)

2.3. (9) A は B に財布を盗まれた。(持ち主の受身、持ち物)

この文も次の(5)のように、動作主を与格とし、持ち物を対格とした持ち主の受身(持ち物)の文が可能である。(a)タイプによるもので、構文は持ち主の受身(体の部分)と同じである。ただし、ここでは動作主に人名ではなく *ɔttɔn saram* 「だれか」を入れてある。

(5) *tʃine-nun ɔtʃɔn saram-hantʰe tʃigab-ul sometʃigi taj=he-ss-ta.*

チネ -TOP 或る 人 -DAT 財布 -ACC スリ 被る -PAST-終結

「チネはだれかに財布を**掏**られた。」 (진에는 어떤 사람한테 지갑을 소매치기 당했다.)

コンサルタントによれば、動作主に *ɔtʃɔn saram* (어떤 사람) 「ある人」の代わりに具体的な人名を入れると、(6)のように動作主を主格にするのが自然とのことである。

(6) *judʒɔŋ-i tʃine-e tʃigab-ul sometʃigi he-ss-ta.* (유정이 진예의 지갑을 소매치기했다.)

ユジョン-NOM チネ-GEN 財布 -ACC スリ する-PAST-終結

「ユジョンがチネの財布を**掏**った。」

(5) は持ち主の受身(体の部分)と構文は同じである。したがって、具体的な動作主を明示できるかどうかは、体の部分なのか持ち物なのかの違いに原因があることが考えられる。(5)と(6)の両文において *sometʃigi* (소매치기) 「スリ」も対格をとることができるが、これは強調などによって独立させたときに文法上必要になるものであり、構文上は「スリ」が目的語ではなく、「スリ(を)する」の目的語が *tʃigab* (지갑) 「財布」である。また 2.7 でも触れるが、被動者は人でなければならず、「財布」を主格にした受動構文にはできない。

2.4. (エ) 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。(自動詞からの間接受身)

ul- 울- 「泣く」のような自動詞の動作主を与格にした受動文は作ることができない。また *ul-* (울-) 「泣く」にヴォイス転換形態素をつけた *ul-li-* (울리-) は「泣かす」であり、この動詞の受動形は作れない。したがってこのような状況は次の(7)のように能動文で表されることとなる。

(7) *ɔdʒe 'pam-e-nun agi-ga ur-ɔ-sɔ hansum-do mot tʃa-ss-ta.*

昨日 夜 -LOC-TOP 赤ん坊 -NOM 泣く -て ひと休み -も できない 寝る-PAST-終結

「昨日の夜は、赤ん坊が泣いて、一睡もできなかった。」

(어젯밤에는 아기가 울어서 한숨도 못 잤다.)

2.5. (オ) 新しいビルが(Aによって)建てられた。(モノ主語受身、一回的)

建てた動作主が明示されない次の(8)は可能である。

(8) *i pildij-un fim njɔn dzɔn-e seu-ɔ-dʒi-ɔ-ss-ta.* (이 빌딩은 10년 전에 세워졌다.)

このビル -TOP 10 年 前 -LOC 立てる -DETR-E-PAST-終結

「このビルは10年前に**建**てられた。」

この文の *seu-ɔ-dʒi-* (세워지-) は、自動詞 *ɔ-* (서-) 「立つ」の他動詞形 *seu-* (<**so-ju-*) (세우-) に自動詞化補助語幹 *-dʒi-* (-지-) がついたもので「立てられた」と訳すことができ、意味的にも受動形と呼んでいいだろう。ところが次の(9)は、日本語訳をみると(8)と同じ状況に見えるが、*seu-ɔ-dʒi-* (세워지-) は使いにくく、(9)のように別の動詞 *seŋgi-* (생기) 「生じる」が自然だということである。

(9) *tʃɔgi(-e) pildij-i sero seŋgi-ɔ-ss-ta. (?seu-ɔ-dʒi-ɔ-ss-ta)* (저기에 빌딩이 새로 생겼다.)

あそこ-LOC ビル -NOM 新たに できる -E-PAST-終結

「あそこに新しいビルが**でき**た。」 (?建てられた)

(9)で *seu-ɔ-dʒi-* (세워지) 「建てられる」が使いにくい原因としては、(8)よりも「建てる」過程への注目度が小さいことがあるかも知れない。また(8)でも動作主(施工主: *hʃɔnde kɔnsɔl* (현대건설) 「現代建設」)を入れると受動にしにくく、(10)のように能動形 *seu-* (세우-) 「立てる」で言うとのことである。

(10) *i pildij-un hʃɔnde kɔnsɔl-i fim njɔn dzɔn-e seu-ɔ-ss-ta.* (이 빌딩은 현대건설이 10년 전에 세웠다.)

このビル -TOP 現代 建設 -NOM 10 年 前 -LOC 立てる -E-PAST-終結

「このビルは**現代建設**が10年前に**建**てた。」

「建てる」のほか結果物を目的語（結果目的語）とする動詞として *mandul-ɔ-dzi-* (만들어지-) 「作られる」 (< *mandul-* 만들- 「作る」) や *kuri-ɔ-dzi-* (그려지-) 「描かれる」 (< *kuri-* 그리- 「描く」) も動作主が明示されない方がふつうである。

2.6. (カ)カナダではフランス語が話されている。(モノ主語受身、恒常的。動作主が問題にならない場合)

「話す」を「使う」に替え、それを自動詞化することで *p^hurajsuɔ* (프랑스어) 「フランス語」を主格とした(11)の文が可能である。*ssu-* (쓰-) 「使う」の自動詞化は(d)によって *ssu-i-* 쓰이- にするか、これにさらに自動詞化の(c)を加え *ssu-i-ɔ-dzi-* 쓰여지- とする方法、または同義語の漢語語彙 *sajon=ha-* 사용하- 「使用する」の(b)タイプの自動詞化 *sajon=dwe-* 사용되- も可能である。

(11) *k^henada-esɔ-nun p^hurajsuɔ-ga ssu-i-nda / ssu-i-ɔ-dzi-nda / sajon=dwe-nda.*

カナダ -LOC -TOP フランス語 -NOM 使われ -終結 使われ -DETR -終結 使用 なる -終結

「カナダではフランス語が使われている。」

(캐나다에서는 프랑스어가 쓰인다/쓰여진다/사용된다.)

ただし、(11)の文はいくらか文章語的であり、話し言葉でこの内容を表す最も自然な言い方は(12)のように *ssu-* 쓰- 「使う」を使った能動文である。

(12) *k^henada-esɔ-nun p^hurajsuɔ-ruil ssu-nda.* (캐나다에서는 프랑스어를 쓴다.)

カナダ -LOC -TOP フランス語 -ACC 使う -終結

「カナダではフランス語を使っている。」

ところで一般的に「話す」を表す動詞は *mal=ha-* (말하-) 「言う、話す」 (*mal* 말 「言葉」) または *ha-* (하-) 「する、言う、話す」であるが、ここでは能動文にしたとしてもこの動詞を使えない。その原因は、*mal=ha-* (말하-) 「言う、話す」の意味特徴としておそらく、ある程度具体的な内容を言うことを想定している動詞であることが考えられる。

2.7. (キ)財布が (A に) 盗まれた。(モノ主語受身、モノ主語の背後に被影響者が想定される)

被害の意味でのモノ主語受身はできないと考えられる。この文は(13)のように *tfigab* 지갑 「財布」を対格にして「財布を泥棒された」とするのが自然である。

(13) (a) *tfigab-i ɔps-ta tfigab-ul toduk₂-madɔ-a-ss-ta.* ((아, 지갑이 없다.) 지갑을 도둑맞았다.)

あ 財布-NOM ない -終結 財布 -ACC 泥棒 受ける -E-PASS -終結

「(あ、財布がない) 財布を泥棒された。」

ここで「財布」を主格にすることはできない。すなわち(13)は2.3の「持ち主の受身」である。

ところで *humt^hi-* (훔치-) 「盗む」を(c)タイプにより自動詞化し、「財布」を主格にした(14)は、コンサルタントによると、文法的に間違いとは言えないが実際に使うことはないとのことである。

(14) ? *tfigab-i humt^hi-ɔ-dzi-ɔ-ss-ta.* (지갑이 훔쳐졌다.)

財布 -NOM 盗む -E-DETR -E-PASS -終結

「財布が盗まれた。」

2.8. (ク)壁に絵が掛けられている。(モノ主語受身、結果状態の叙述)

kɔl- (걸-) 「掛ける」を(d)タイプで自動詞化した *kɔl-li-* (걸리-) 「掛かる」を使って(15)のように表される。

(15) *pjɔg-e kurim-i kɔl-li-ɔ iss-ta.* (벽에 그림이 걸려 있다.)

壁 -LOC 絵 -NOM 掛ける-VOICE-E いる -終結

「壁に絵が掛かっている。」

この文の動詞は自動詞の「掛かる」であり、受動とは言えないだろう。また動作主を示すことはできない。類似の例として *jal-li-ǒ iss-* (열려 있-) (< *jal-* 열-「開ける」)「開いている」がある。ところで、*kol-li-* (걸리-)「掛かる」に(c) *-dji-* をつけた *kol-li-ǒ-dji-ǒ iss-ta* (걸려져 있다)「掛けられている」は受動形と言えるが、これをこの文に使うことは、可能ではあるが非常に不自然とのことである。

2.9. (ㄱ) A は B に／から愛されている。(感情述語の受身、特に動作主のマーカ―に注目)

saraj=ha- (사랑하-)「愛する」は(a)タイプによって受動にすることができる。(16)の文は、被動者が主語、動作主が与格 *-hantʰe* (-한테)「に」となる受動構文である。

- (16) *tʃine-nun judʒon-hante saraj=pat-ko=iss-ta.* (진에는 유정한테 사랑받고 있다)
チネ -NOM ユジョン -DAT 愛 受ける -PROG-終結
 「チネはユジョンに愛されている。」

pat-(받-)「もらう」を利用していることから意味的にも受動といえる。動作主はふつう与格で現れるが、奪格 *-hantʰeso* (-한테서)でも可能である。

2.10. (ㄴ) A は B に／から「...」と言われた。(伝達動詞の受身、特に動作主のマーカ―に注目)

「言う」にあたる *ha-* (하-)、*mal=ha-* (말하-)「話す」は、2.6 で触れたように、受身ないし自動詞化することはできない。したがって(17)のように能動形で表すことになる。

- (17) *judʒon-un tʃine-hante "kadzi ma!" rago he-ss-ta.* (유정은 진예한테 “가지마!”라고 했다.)
ユジョン -NOM チネ -DAT 行くな と 言う-PASS-終結
 「ユジョンはチネに“行くな”と言った。」

「言われる」という表現は、言われた内容がその本人自身に対する評価である場合には、(18)のように「言う」と対称な動詞 *tut-* (듣-)「聞く」を用いて「～だという言葉を書く」として表現することができる。ただしこの構文は動作主(言った者)を明示するときには使えない。

- (18) *tʃine-nun jeppu-da-nun mal-ul manhi tut-nunda.* (진에는 예쁘다는 말을 많이 듣는다.)
チネ -TOP 可愛い終結 -という 言葉 -ACC 多く 聞く -終結
 「チネはよく可愛いと言われる。」(チネは可愛いという言葉をよく聞く)

2.11. (ㄷ) 重文後半の主語、指示転換

(ㄷ-1) 「AさんはBさんに呼ばれて、今Bさんの部屋に行っています。」

(ㄷ-2) 「BさんがAさんを読んで、Aさんは今Bさんの部屋に行っています。」

(ㄷ-1) の日本語は受動「呼ばれる」となっているが、これを朝鮮語にするときは能動形を使わざるを得ず、結果として(ㄷ-1)にあたる(19)と、(ㄷ-2)にあたる(20)はほぼ同じ文になる。

- (19) *tʃine-nun sadʒaj nim-i puru-si-ǒ-sǒ tʃigum sadʒanjfir-e iss-ta.*
チネ -NOM 社長 様 -NOM 呼ぶ -(尊敬)-E-て 今 社長室 -LOC 居る-終結
 「チネは、社長が呼んで、今、社長室にいる。」
 (진에는 사장님이 부르셔서 지금 사장실에 있다.)

- (20) *sadʒaj nim-i tʃine-rul puru-si-ǒ-sǒ tʃine-nun tʃigum sadʒanjfir-e iss-ta.*
社長 様 -NOM チネ -ACC 呼ぶ -(尊敬)-E-て チネ -NOM 今 社長室 -LOC 居る-終結
 「社長がチネを呼んで、チネは今、社長室にいる。」
 (사장님이 진예를 부르셔서 진예는 지금 사장실에 있다.)

(19)では、日本語の助詞「は」に相当する主題標示の *-nun* (-는) が使われており、これは遠く後半の動詞まで規定する性質があり、後半に主語がないのは省略というわけではない。また「呼ぶ」の末尾につけられた *-sǒ* (-서)「して」は後半の理由を表す従属節をつくっており、重文ではない。*tʃine-nun*

(진예는)「チネは」を対格 *tfine-rul* (진예를)「チネを」にすると(20)の前半と同じくなり、後半に主語が必要となる。

「呼び出される」を表そうとするとき、*puru-* (부르-)「呼ぶ」の(d)タイプの自動詞 *pul-li-* (불리-)をそのまま使うわけにはいかないが、補助動詞 =*ka-* (가-)「行く」をつけて *pul-li-ᄃ=ga-sᄃ* (불러가서)「呼ばれて行って、呼び出されて」とすれば可能である。

- (21) *tfine-nun sadzanim-hant^{he} pul-li-ᄃ=ga-sᄃ tfigum sadzanfir-e iss-ta.*
チネ -NOM 社長 -DAT 呼ぶ-VOICE -E 行く -て 今 社長室 -に いる-終結
「チネは社長に呼び出されて、今社長室にいる。」
“공부의 신”이라고 불리고 있다.

pul-li- 불리- は、次の(22)のように動作主を明示しない「(広く)呼ばれている」という意味として使われる。

- (22) “*konbu-e jin*”-*i-rago pul-li-go=iss-ta.*
勉強の 神 -COP-と 呼ぶ-VOICE -PROG-終結
「“勉強の神”と呼ばれている。」
“공부의 신”이라고 불리고 있다.

参考文献

- 伊藤英人. 2012. 「朝鮮語」『語学研究所論集 (特集「ヴォイスとその周辺」)』17, pp. 128-144.
許明子. 1999. 「日本語と韓国語の受身文の実証的対照研究 —両国のテレビドラマと新聞コラムにおける受身文の使用率の分析を通して—」『世界の日本語教育』9, pp. 115-131.
韓国国立国語院『標準国語大辞典』
(https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do?word_no=7616&searchKeywordTo=3) 2021年2月2日最終アクセス.
白明学. 2011. 「受身形式の多様性と構文の特徴」『名古屋大学文学部研究論集 (文学)』pp. 69-82.
長渡陽一. 2013. 『初級を卒業した人のための韓国語文法』ナツメ社.

執筆者連絡先 : nagatoyouichi@gmail.com

原稿受理 : 2020年12月19日